

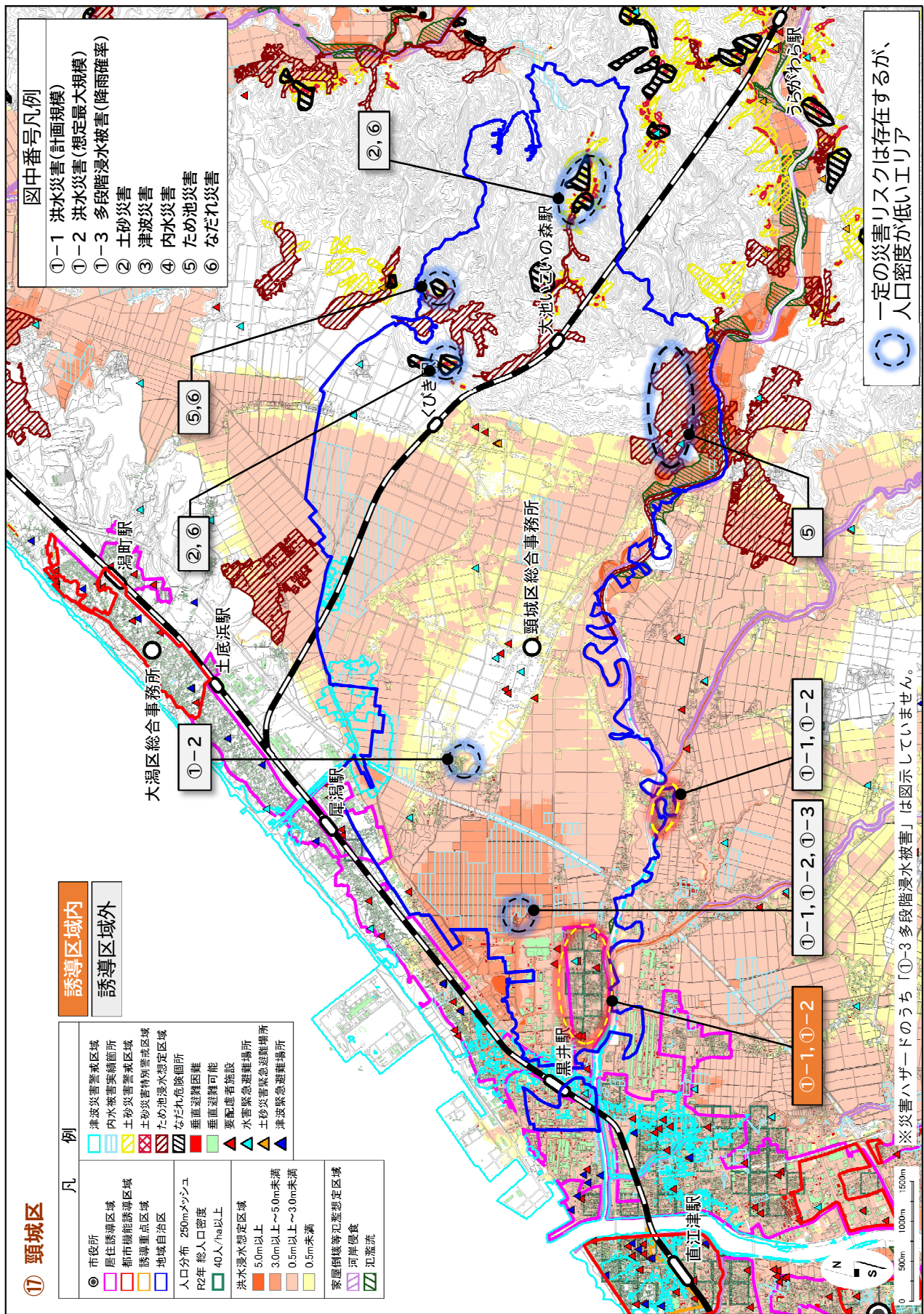
⑪ 頸城区

凡 例	
● 市役所	津波災害警戒区域
■ 居住誘導区域	内水被害警戒箇所
■ 都市機能誘導区域	土砂災害警戒区域
■ 誘導重点区域	ため池洪水想定区域
■ 地域自治区	なだれ危険箇所
人口分布 250mメッシュ	垂直避難可能
R2年 総人口密度	要配慮者施設
■ 40人/ha以上	水害緊急避難場所
洪水浸水想定区域	土砂災害緊急避難場所
■ 5.0m以上	津波緊急避難場所
■ 3.0m以上～5.0m未満	
■ 0.5m以上～3.0m未満	
■ 0.5m未満	
家屋倒壊等危険想定区域	
■ 河津電流	
■ 氾濫流	

誘導区域内
誘導区域外

図中番号凡例

- ①-1 洪水災害(計画規模)
- ①-2 洪水災害(想定最大規模)
- ①-3 多段階浸水被害(降雨確率)
- ② 土砂災害
- ③ 津波災害
- ④ 内水災害
- ⑤ ため池災害
- ⑥ なだれ災害



一定の災害リスクは存在するが、人口密度が低いエリア

※災害ハザードのうち「①-3 多段階浸水被害」は図示していません。

表 災害リスクの整理 (⑰頸城区)

災害ハザード	災害リスク	含まれる誘導区域(*)			
		居	都	重	外
①ー1 洪水災害 (計画規模)	JR 信越本線黒井駅東側や保倉川沿いの市街地において洪水による浸水被害のおそれがあり、人口密度が高く垂直避難が困難なエリアが見られ、エリア内に要配慮者施設も立地しており災害リスクが存在する。 また、人口密度等は高くないものの浸水深 0.5m以上～3.0m未満の区域で垂直避難が困難なエリアもあり災害リスクが存在する。	●	—	—	●
①ー2 洪水災害 (想定最大規模)	上記計画規模と同様のエリアとともに一部集落部においても浸水深が 0.5m以上～3.0m未満に該当し、人口密度や高齢者人口割合が高く、かつ垂直避難が困難なエリアがあり災害リスクが存在する。	●	—	—	●
①ー3 多段階 浸水被害 (降雨確率)	想定最大規模では、区西部において現況から短期にかけて浸水深 0.5m以上の浸水想定区域が広がり、一部高齢者人口割合も高いエリアもあることから災害リスクが存在する。 浸水深 3.0m以上となる中低頻度以上の災害リスクは区内には見当たらない。	—	—	—	●
② 土砂災害	区東部の山際において、一部土砂災害警戒区域に指定され、かつ高齢者人口割合が高いエリアがあり災害リスクが存在する。	—	—	—	●
③ 津波災害	ほぼ災害リスクは存在しない。 ※JR 信越本線黒井駅及び犀潟駅東部周辺に津波災害警戒区域が指定されているものの、特筆すべき災害リスクは見当たらない。	—	—	—	—
④ 内水災害	ほぼ災害リスクは存在しない。 ※農地を中心に内水浸水実績箇所が見られるものの、特筆すべき災害リスクは見当たらない。	—	—	—	—
⑤ ため池災害	区東部に立地する大池・小池及び新留に起因するため池浸水想定区域と高齢者人口割合が高いエリアとの重複が見られ災害リスクが存在する。	—	—	—	●
⑥ なだれ災害	区東部の山間部等において、なだれ危険箇所が指定された区域と、高齢者人口割合が高いエリアの重複が見られ災害リスクが存在する。	—	—	—	●

(*) 居:居住誘導区域、都:都市機能誘導区域、重:誘導重点区域、外:誘導区域外、—:該当なし

【居住誘導区域内の災害リスクについて】

区西部に指定された居住誘導区域内において、洪水災害に関し浸水区域と人口密度が高いエリア及び垂直避難困難のエリアがあり災害リスクが高い。